

経過報告

昨日 22 日 PTA タスクフォースは佐藤領事の取り計らいにより約 20 人の審議会理事とミーティングを持ちました。

そのミーティングにおいて、そしてこれまでの交渉を通じて、我々は理事たちに子供たちへの責任について訴えました。そして審議会の財政を司る理事たちの責任を訴え、審議会の赤字を解決しうる様々な手段も提案しました。そして審議会に対してそれらの手段を取る上で協力を惜しまないことも伝えました。我々は、彼らの心に秘められているであろう良心、今何をすることが正義なのか、について訴えました。現在のキャンパスは 10 数年前の当時の審議会のリーダーシップのもとで様々な障害を乗り越えて勝ち得たものです。我々はこのかけがいのない貴重な資産を守る責任を理事たちに訴えました。そして、ただ安易にキャンパスを売却してその場をしのぐのではなく、この困難な状況を乗り越えるための彼らのプライド、そしてプロ意識に訴えかけました。そして、キャンパスの買い手からの訴訟に対応する手段も提案しました。そして現在新しい移転先でのプラン、どこで、どれだけのコストがかかって、どれだけの生徒が集まるのかがまったく提示されていない現状で、移転が財政問題を解決できる根拠がまったく無いことも訴えました。そしてそんなリスクに学校をさらすことが無いように訴えました。現在のキャンパスを立ち上げる際にも、当初の予定を大きく上回るコストがかかったという事実があります。移転は、現在我々がすでに理解している問題を一つ一つ解決していく方法と比較して、はるかにリスクが高い解決方法です。

そして最後に、法のもとでの理事たちの個々の責任について強く訴えました。これらの訴えに少しでも真摯に耳を傾けていただけることを期待していますが、現状においてまだその様子は確認できておりません。

来週火曜の審議会理事会で売却が可決されるとしたら、それは以前に佐藤領事がおっしゃっていたように、「理事たちがお怒りである」という理由によるのでしょうか？我々の働きかけについてお怒りになられていることは理解できても、それが「子供のために」という原理原則とはまったく無関係であることは明らかです。それとも子供とは無関係のところ売却に固執される理由があるのでしょうか？真実はいずれの日にかは明らかになり、父母達のこれだけの反対を押し切った上で強行に売却に賛成する理事たちの真実の動機が明らかになるときがくるでしょう。これが言論の自由が確立されている社会の最大の素晴らしいところの一つです。

来週火曜日に売却が審議会で決定されるようならば、水曜日にまたご連絡します。それまでの間ですが、この感謝祭の週末に皆様に筆をとっていただき、6 月をお願いしたように、お考えを書面にいただけませんか？月曜に封書で学校当てに提出いただくか、EMAIL で [mycomment@SaveOurJapaneseSchool.org](mailto:mycomment@SaveOurJapaneseSchool.org) までお送りください。コメントはすべて匿名で取り扱わせていただきます。

皆様のご協力に深く感謝いたします。

PTA 会長  
Emil F Jachmann